

# CHILDREN'S VOICES

## ICAN NEWS LETTER



### 「マンスリーパートナー」「子どもの家ファミリープログラム」ご参加のお願い

いつもアイキャンを応援くださり、本当にありがとうございます。アイキャンは2022年2月、「子どもの家ファミリープログラム」を開始しました。「子どもの家」は、路上の子どもたちに保護が必要な時の受け入れ先として、また、子どもたちが安心・安全に暮らすことができ、自立できるよう様々なことを学べる場として建てられました。

しかし現在、その運営は非常に厳しい状況にあり、人件費や事務所移転等の多方面にわたる経費削減や運営資金確保に向けた様々な活動を行っております。その一つが同封させていただいたクラウドファンディングへの挑戦です。

運営資金が厳しい状況は、毎月継続してご寄付をいただく「マンスリーパートナー」と「子どもの家ファミリープログラム」のご加入者数、及び2018年～2020年の各年正味財産増減額から見てとることができます。

「マンスリーパートナー」ご加入者数は、この数年約300件と横ばい状態です。路上教育や職業訓練の安定した運営には約600件/年間のご参加をいただきたいのですが、300件ほどご加入者数が足りていません。また、今年2月に開始した「子どもの家ファミリープログラム」は、「子どもの家」の安定的運営のために272件/年間のご参加をいただきたいのですが、5月末時点で21件に止まっており、251件ほどご加入者数が足りていません。さらに、2018年～2020年の各年正味財産増減額はいずれの年もマイナスとなり厳しい状況が続いています。（2018年：-4,539,577円/2019年：-789,985円/2020年：-13,130,761円）このような状況から、「マンスリーパートナー」及び「子どもの家ファミリープログラム」へのご参加を改めてお願いさせていただきますことにご理解をいただけましたら幸いです。

アイキャンは2022年3月にジブチでの活動を終了し、今後はフィリピンのマニラ・マニラ近郊での活動に専念します。路上の子どもたちの保護・教育・職業訓練や、貧困で十分な食事を摂ることのできない子どもたちへの給食提供が主な活動です。私たちは、これからも子どもたちにとり、より良い生活環境の確保を目指し活動を続けてまいりますので、ぜひ「マンスリーパートナー」「子どもの家ファミリープログラム」等へのご参加をいただけましたら幸甚に存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

# 活動ダイジェスト |

## 2021年11月～2022年4月のアイキャンの活動

### 1. フィリピン共和国

#### <子どもの家>

- 児童養護施設「子どもの家」では、合計**18名**の子どもが安心・安全な環境で、学校教育を受け、子どもらしく生活することができました。うち**1名**は卒業し、職業訓練施設を備えるパートナー施設に移動しました。また、スポーツやライフスキル研修、野菜の栽培等を通して、心身の育成を目指しました。



#### <路上教育>

- 路上の子どもたちへ生きるために必要な知識や技術を教える「路上教育」活動の見直しと改善の一環として、路上の若者**2名**とカリエメンバー**2名**が、路上の子どもが抱える課題に関する参加型調査を実施し、路上の子どもが抱えるニーズを整理しました。さらに、路上の子どもの生活と課題をより深く把握するために、彼らの生活の一部に参加し、子どもの日々の活動の観察と体験をしました。



#### <職業訓練>

- 元路上の青少年による協同組合「カリエ」のメンバー**12名**を対象に、商品製作、マーケティング、差別化、付加価値、営業などをテーマにした能力強化研修を**9回**実施し、延べ**71名**が参加しました。また、カリエメンバー**4名**が、「子どもの家」の子ども**17名**を対象に、職業訓練を**1回**実施し、教育の重要性、将来の夢を叶える方法について共有しました。



#### <給食活動>

- マニラ市で最も貧しいといわれるトンド地区の3歳から5歳の子ども**69名**に対して**119回**の給食を提供し、延べ**3,789名**が栄養価の高い食事を取ることができました。※新型コロナウイルス感染対策として、人数制限やテイクアウトも採用し、活動を継続しました
- 安価かつ栄養価の高いメニューを地域内で共有するために、クッキングコンテストを**1回**開催し、トンド地区の母親**54名**が参加しました。
- トンド地区の母親**11名**が、ボランティアとして継続的に、子どもの栄養改善を目的に給食活動を運営しています。



#### <コロナ禍の活動>

- カリエメンバー**2名**が、「トンド地区」の**28名**の子どもに対して、新型コロナウイルス感染予防の啓発活動（新型コロナウイルスの症状、予防方法、正しい手洗いの仕方等）を実施しました。



### 2. シブチ共和国

#### <シブチ国内3つの難民キャンプにおける活動>

- お絵かき等の文化活動やスポーツ活動を通して、創造性や共感性を育てる「子どもの広場」に、延べ**3,948名**の子どもが参加しました。
- 「子どもの広場」を支える青少年ボランティアへ、コミュニティ内での啓発活動の重要性や実施方法等に関する研修を計**4回**実施し、延べ**40名**が参加しました。
- 子どもたち自らが司会進行を務める「子ども議会」を計**11回**開催し、延べ**163名**の子どもが、「子どもの広場」の役割について等をテーマとして、様々な意見を交わしました。



- 子どもたちの状況を把握し適切な対応をするため、家庭訪問**299**件と、子どもや保護者に対するカウンセリングを**9**件行いました。
- 子どもへの体罰についてや、子どもの権利等に関する啓発研修を、計**13**回実施し、延べ**147**名が参加しました。

#### <ホルホル難民キャンプにおける活動>

- 子どもの夜の勉強時間の確保を主な目的として、太陽光で充電できるソーラーランタンを**828**世帯に対し、提供しました。
- プライバシーが守られた環境でカウンセリングを実施できる「子どもの保護センター」と、屋根があり安心・安全に子どもたちが遊べる「子どもの広場」の建設が完了しました。また、キャンプ内**3**カ所に子どもの保護に関する啓発看板と、**2**カ所に難民の声を拾い意見を活動へ反映させていくための提案箱を設置しました。



#### <都市難民との活動>

- シブチ市内に暮らす子どもがいる難民世帯の**110**名に対し、通学補助（学費、学用品費等）を目的とした現金給付を実施しました。

### 3. 能力強化事業（日本）



- 中学校～高校までの教育機関で、フィリピンの現状と活動・イエメン内戦・シブチの難民キャンプでの取り組みについての講演を、オンラインで**2**件、対面で**2**件、合計**116**名に対し行いました。また、**3**件のオンラインイベントやセミナーにおいて、合計**66**名の方々に対して講演を実施しました。
- インターン生によるフェアトレード勉強会や駐在員による活動報告会等の自主イベントを**4**回開催し、合計**47**名にご参加いただきました。
- NGO相談員として、オンライン講演を**5**件、対面での講演を**1**件実施し、教育機関や企業、NGO関係の**354**名に、NGOの役割や、コロナ禍での活動についてお話ししました。また、NGOの活動や組織運営、国際理解教育等に関する質問を、計**570**件受け付けました。
- 日本事務局にて**6**名のインターン生を受け入れ、主に、フェアトレード事業の補佐・街頭募金活動の実施・イベントの企画実施・募金箱の設置等を担当してもらいました。
- オンラインによる国際理解海外研修を**1**回実施し、高校生**15**名が参加しました。

### 4. ボランティア・寄付活動推進事業（日本）

- 書き損じハガキ(計**63,680**枚)や、古本や不要品(寄付件数**79**件)の収集活動を行いました。
- 2022年4月末時点のマンスリーパートナーは**291**名でした。また、新規寄付プログラム「子どもの家ファミリープログラム」のお申し込みは、今期、**21**件でした。
- 街頭募金を**4**回実施し、延べ**24**名のボランティアに参加いただき、約**215**名の方々が募金してくださいました。
- 今期、延べ**79**名が事務局ボランティアを行ってくださいました。



### 5. 国内自然災害（長野）



- 長野市長沼地区において、被災者の心のケアに資する活動として、写真洗浄・返却活動を、長野県福祉協議会、及びボランティアの皆さまと実施しました。
- 2022年4月末時点で、お預かりしている全**32,163**枚（※破損が激しく洗浄できないものを除く）の写真のうち、**27,016**枚（全体の約**84%**）の洗浄が完了しました。

# 特集 | フィリピン

## 「子どもの家」を支えるスタッフたちの想い

現在、17名の元路上の子どもたちが暮らす児童養護施設「子どもの家」

子どもたちの生活を支えるスタッフたちへ、以下の4つの項目でインタビューしました！

①仕事内容 ②やりがいを感じる時 ③子どもたちの変化 ④子どもたちへ希望すること

「子どもの家」施設長  
マリテス



- ①「子どもの家」での日々の活動が、アイキャンの理念や行動指針に合致しているのか、子どもたちの最善の利益につながっているかを常に考えながら、状況に応じて活動を修正しています。子どもたちだけでなく、スタッフにとっても、自分の居場所と感じられるような環境づくりに取り組んでいます。
- ②スタッフが互いに理解してコミュニケーションを取り、子どもたちへより良い活動ができたとき／子どもたちが遊び、笑い、自分自身のことを語ってくれたとき／パートナーが、子どもたちがかわいそうだからではなく、アイキャンの理念に賛同して寄付をしてくださったとき
- ③自分たちの意見を話したり、提案をすることに自信が持てるようになりました。また、犬や猫、野菜の世話に責任を持つようになりました。
- ④人生に希望をもち、過去の辛い出来事も糧にして、将来を切り拓いてほしいです。また、アイキャンで学んだことが、心の片隅でもよいので残ってほしいです。

ソーシャルワーカー  
(社会福祉士)  
メリアン



- ①子どもたちに規律や集団行動について教え、善悪の区別がつけられるように支援しています。何気ない会話から、考えや悩みを知るようにしています。また、子どもたちの通学の書類手続きや、子どもたちの家族を訪問して、家庭環境を改善させることも仕事の一つです。
- ②子どもたちからの信頼を得ることができ、自分自身の話をしてくれるとき／子どもたちが進級するなど、何かを達成できたとき／子どもたちが持っている可能性（絵を描くのが上手いなど）を垣間見ることができたとき／元気で笑顔で遊んでいる子どもたちの姿をみたとき
- ③子どもたちは、以前は質問をしても、簡単な返事しかせず詳しく話そうともしませんでしたが、今では心を開いて、過去のことや思っていることを話してくれるようになりました。また、子どもらしい笑顔が見られるようになりました。
- ④学校を卒業して、善悪が区別できる大人になってほしいです。そして、責任感を持ち、自分の子どもができた時は、しっかりと世話ができる大人になってほしいです。

教師  
アイビー



- ①国語、算数、英語などの基礎教科に加えて、お絵描きや体育などの授業もしています。また、正しい服の着方や、挨拶やお礼、物を大切に使うことなどの基礎的なマナーも教えています。
- ②子どもたちが授業中に楽しそうにしているとき／子どもたちが自分たちの思っていることを言葉や絵で表現できたとき／文字を書いたり直線を書くことができなかつた子どもが、授業を通してそれらができるようになったとき
- ③子どもたちは、「子どもの家」での生活を通して、料理・洗濯・掃除などの基本的な家事ができるようになりました。また、授業中に人の話を集中して聞けるようになりました。さらに、「ありがとう」や「おはようございます」などの言葉を自分から言えるようになりました。
- ④子どもたちには、学校を卒業して、自分自身の将来の夢を叶えて欲しい。また、子どもたちの家族が扶養能力を持つようになり、子どもたちが家族の元に戻れることを願っています。

寮母  
メリージェン



- ①ご飯・洗濯・掃除など、子どもたちの身の回りの世話をすると同時に、子どもたちへ家事全般のやり方を教えています。子どもたちが規則を破ったり悪いことをした際は、叱るなどのしつけも行っています。普段は子どもたちとお話したり遊んだり、お母さんとして接しています。
- ②子どもたちが子どもらしく笑顔でいる姿を見たとき／注意したことを、子どもたちがしっかりと守るようになったとき
- ③以前は何度同じことを注意しても態度や行動が変わりませんでしたが、最近は少し注意するだけでしっかりと行動に移すようになりました。また、自ら家事を手伝うようになったり、過去や自分自身のことをオープンにしてくれるようになりました。
- ④勉強を継続し、学校を卒業してほしいです。そして、優しく立派な大人になってほしいです。

# 事業地の声

## フィリピン

職業訓練に奮闘する「カリエ」メンバーの声

かつて路上で生活していた青少年で構成される協同組合カリエ（カリエは現地語で「路上」の意味）は、ビジネスを通じた安定的な収入確保を目指しています。また、その利益を、現在も路上で生活する子どもたちへの教育活動等へ還元することも目標にしています。

これまで、パン等を提供するカフェを開いていましたが、コロナ禍により、店舗でのカフェ運営が困難となってしまいました。そこで、約1年間オンラインを活用したパンやお菓子の販売に向けて、オンライン販売・広報・マーケティング・パッケージ製作などの様々な職業訓練を受けてきました。訓練で身に着けた技術を活かし、4月8日には新商品発表会を行いました！



カリエメンバー：エンジェルさん

昔からある私たちのパンは、フィリピンの一般市民にとっては、値段が高く、購入してくれるフィリピン人はあまりいませんでした。しかし、研修を通して、マーケットを拡大していくことと、カリエの目的である路上の子どもたちの権利を啓発していく重要性を学んだので、フィリピンの誰にとっても購入し易い新商品が必要でした。フィリピンでは数円でパンが購入できますので、その価格帯に合わせたモリンガの葉の粉を混ぜたモリンガパン、ドーナツ、ハンズなどの作り方を講師の方に教えてもらって、製作できるようになりました。今後は、近隣の個人商店や学校で定期的に私たちのパンを販売するために、営業をかけていく予定です。



カリエメンバー：リカさん

新商品発表会では、バナナチップス、サツマイモチップス、パンデサル（朝食によく食べられるパン）、モリンガパン、ハンズ、ドーナツの6種類の新商品を、7名の訪問者に試食してもらいました。訪問者には、評価表を手渡し、味、見た目、食感などの項目別で5段階評価をしてもらいました。どのような評価を受けるか心配していましたが、ほぼ全ての新商品において高評価をいただきました。一部の商品では、食感において低い評価があったので、今後改善していきたいと思えます。バナナチップスとサツマイモチップスは特に高評価で、日持ちもしますので、お土産としても購入できます。日本からの訪問者の方々にも購入してもらえると嬉しいです。

# パートナーの声

「子どもの家ファミリープログラム」ファミリーより

飯田 恵美様



アイキャンの活動は、2020年のクラウドファンディングをきっかけに知りました。とても前向きでパワフルな感じがして、参加したいと思いました。スタッフの方がくださるメッセージが、一つ一つ丁寧に書かれていて、情熱を込めて活動していると感じました。「子どもの家ファミリープログラム」は、動画を見て、とても素晴らしいプログラムだと思いました。子どもたちが幸せにパワフルに人生をおくっていて、とても魅力的だったので、参加したいと思いました。子どもたちは、とても辛く大変な想いをしてきたので、恵まれた生活のなかで、実りある日々をおくってくれたらと思います。そんな活動に参加応援できるのは、私にとっても光栄な楽しい経験です。

## 「子どもの家」のファミリーになっていただけませんか？



### ■お申し込み方法

アイキャンのHP ([https://ican.or.jp/family\\_program/](https://ican.or.jp/family_program/)) で、「子どもの家ファミリープログラム」の詳細及び、「規約」「よくある質問」をご確認いただき、お申し込みください。（※クレジットカードでのお申し込みのみとなっております）

クレジットカード決済完了後、ご支援いただく子どものプロフィールを含むご案内をメールにて送付させていただきます。



QRコードから、左記のURLと同ページへ飛べます

### ■金額

- ・月々3,000円（1日あたり100円）※複数口のお申し込み可

### ■使途

- ・「子どもの家」の食費、日用品購入費、教育費、カウンセリング等に係る費用
- ・施設の維持・修繕費及び運営・管理費

### ■ファミリーになると

- ・子どもからのお便りが届きます（年2回）
- ・オンライン交流会に招待します（年1回）
- ・スタディーツアーを通して子どもに会うことができます  
※参加費は自己負担となります



## 事務局からのお知らせ



### ジブチでの活動終了のご報告

ジブチでの難民の子どもたちの保護事業は、2022年3月13日をもって終了いたしました。皆さまには長らくにわたり、活動への温かい応援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

今後は、フィリピンのマニラ近郊での活動に注力してまいりますので、引き続き、アイキャンの活動を応援いただけましたら幸いです。

## 特定非営利活動法人アイキャン（ICAN）

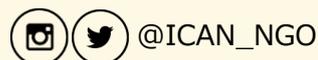
アイキャンは、一人ひとりの「できること」を持ち寄り、貧困・紛争・災害による影響を受けた子どもの能力向上や地域の環境改善に取り組む国際協力NGOです。

住所：〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須3丁目5-4 矢場町パークビル9階

TEL/FAX: 052-253-7299（火～土 12:00～19:00）

MAIL: info@ican.or.jp

WEB: <https://ican.or.jp/>



WEB QR